

1 はじめに

初心者の失敗で多いのは、すでに処女王が存在している群へ導入してしまう例です。また働蜂産卵を解消する目的で別の群の女王蜂を導入することは、感心できません。産卵中の働蜂がいる群ではよそ者の女王蜂は受け付けてもらえません。問題発生群の解消のためではなく、正常群から分割して導入群に向けていただきたい

1：到着した女王の手当て

まず女王蜂、次に働蜂の無事を確認します。働き蜂の死亡が1～2匹以内であれば導入を成功させるために問題なく、それ以上は輸送中のストレス、特に温度に問題があった可能性を示しています。低温よりも高温によるダメージが大きいため、到着後も群へ導入するまでの間、適温（16～20℃）に保つことに努めてください。輸送王カゴには粉糖を練った餌が詰めてありますが、乾燥していることが多いので、到着後は1～2滴水分を補給してください。

2：女王蜂導入群の準備

- (1) 導入する無王群の準備は女王蜂の到着後でも構いません。むしろ準備が早すぎると働蜂の日令が進み、警戒感が強くなります。大群から割り出して若蜂が多い群を作ってください。割り出した導入群は元群の位置からずれた位置に置き、外役蜂を元群に帰させます。4枚程度の小さな群の方が女王蜂を受け入れやすい傾向があります。
- (2) 流蜜期は群の警戒は緩み、女王蜂の受け付けがよく、解放時期も早くなります。
- (3) 無蜜期には導入前に糖液を与えると、同じ効果があります。
- (4) 女王蜂を更新する場合は、対象の女王を淘汰して新女王を導入します。導入直前に旧女王を殺し、その死骸を王カゴの中に入れるか網に擦り付けて匂いを導入女王蜂に移します。
- (5) 都合で導入群を何日も前から準備する場合は、導入時に変成王台を除いておきます。
(小さい王台や巣脾辺縁の王台を見逃さないように要注意)
- (6) 合成女王蜂フェロモンを利用。
- (5)の場合、分割群の巣脾にフェロモンを挿入しておく、働蜂はフェロモンを吸収して変成王台を作らないか、もしくは少数の更新王台を作ります。フェロモンの担体は、女王蜂導入時に巣脾から王かごの網に挿入し直します。王かご内外の蜂が同じフェロモンを吸収することで警戒感が薄れ、成功率がアップします。導入直前に群を分割する場合にも、マッチ棒ほどの担体を王かごに半分差し込んで導入する方法で同じ成果が得られます。

2 王かご導入の方法

ふつうは巣枠の上棧の上に置けばよいのですが、夜間に冷え込む恐れのある季節、夏の直射日を受けるような場所では危険です。群の中心部に巣枠間の幅をやや広げ、王カゴを枠の中心部にぶら下げてください。

3 女王蜂のリリース（王かごから導入群への解放）

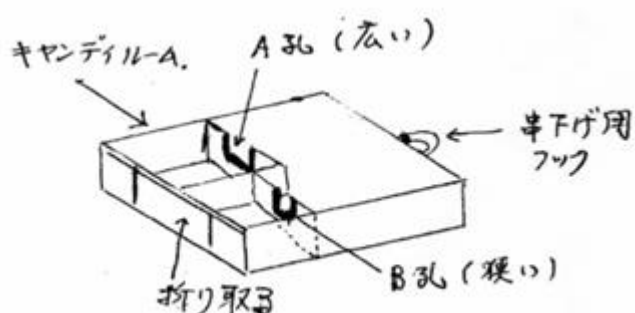
リリースの適期は色々な条件で左右されるため、何日目と特定できません。

流蜜があれば翌日でも OK の時があれば、老蜂で構成される群では 1 週間以上かかることもあります。また、異なる品種の女王蜂の場合は 2~3 日長くかかる傾向があります。ふつう 4 日目頃に開放しますが、1 週間以上王カゴに噛みつく蜂がいる場合は、群にすでに処女王がいることが疑われます。再度の内検が必要です。

働き蜂が王カゴの網目に取り付いて離れない間は解放できません。導入女王蜂が受け入れられた時は、王カゴはほぼ無視された状態になるので、女王蜂は開放できます。この時、女王蜂は体が軽くなって飛ぶことができることを忘れてはいけません。

下手なリリースで女王蜂を空に逃がしてしまえば、2 度と戻ってくることはありません。初心者は王カゴの練り餌側の孔から開放する方がよいでしょう。（折り取れる）。

キャンデー（練り餌）は 2 槽に分かれ、一方は働き蜂は通れても、女王蜂は通過できない幅になっています。（B 孔）。群の中の蜂が餌を食べ進み、先に B 孔から王カゴの内に入り、女王蜂と接触します。餌を食べながら侵入した蜂は攻撃性が無く、すぐに導入女王蜂になじみます。女王蜂は A 孔の餌が食べ尽くされるまで王カゴから抜け出せず、その間に自由に出入りする働き蜂と匂いが同化します。導入時に孔を折り取ることで後日のリリースの手間が省けますが、処女王がいれば殺されてしまう。また餌が固く乾いている場合は水を含ませ、釘などで穴の開通を手助けしてやってください。



4 リリース後の注意

解放後の女王蜂は群での地位はまだ不安定です。数日間はそのままとしてください。

早い時期に女王蜂に触れると攻撃されることもあるので、羽切りやマーキングの作業は、間違いなく育児が進んでいることが確認できてからの方がよいでしょう。

活動期には約 6 週間程で旧女王蜂の働き蜂から新王の働き蜂に入れ替わります。